

平成5年度 保存処理業務報告

森 恭 一

平成5年度の資料課保存処理業務の内容は次のとおりです。なお、平成5年9月までは服部が、10月以降を森が担当しました。

1. 保存処理受託事業

君津郡市文化財センター、山武郡市文化財センター、木更津市、印旛郡市文化財センター、四街道市、香取郡市文化財センターから委託を受け、金属製品の保存修復を行った。

2. 出土資料の保存処理

当文化財センターの調査により出土した遺物のうち、権現後・白幡前遺跡（萱田地区）、椿3号墳（東関道市原）、大木台2号墳（佐倉印西線）、鳴神山Ⅲ（千葉北部新住宅市街地）の金属製品の保存修復を行った。また、平成3年12月より開始した木製品のPEG置換が終了し、表面処理を行った。（註1）

3. 技術支援

X線透過写真撮影、赤外線テレビカメラ撮影、遺物の取り上げ、遺物の仮保管や強化処置に必要な薬品・器材・方法の紹介など、発掘担当者の調査や整理作業を技術的に支援した。また、事業課事業「市町村埋蔵文化財担当職員技術講習会」の応急処理課程を支援した。

4. 保存処理業務の今後

昭和60年度の受託事業開始より、専任で担当していた服部哲則氏の東京学芸大学への転出にともない、10月より保存処理業務を担当することとなった。これからの業務展開について、予定というよりは「希望」に近いものかもしれないが述べた

いと思う。

保存処理業務では、「保存処理受託事業」と「出土資料の保存処理」の2事業と、技術支援をこれまで行ってきたが、保存処理受託事業の処理量と、出土資料の保存処理の処理量とを比較した場合、両者の釣り合いがとれていないことが多く、遺物を含めた各方面に負担がかかっている。

また、技術支援についても、例えば、金属製品の初期対応の方法や、石膏やモデライトに代る、使いやすい合成樹脂による土器や埴輪の修復、ウレタンを使わない簡単な取上げ方法などのような、保存修復技術や機器材の普及分野の脆弱さが目につく。平成6年度以降、それらを改善、強化していきたいと考えている。

本部の資料課保存科学室というと、「何だか分らないが遺物の保存処理をやっているらしい」というのが多くの方の認識であると思う。しかし今後は、単に遺物を保存修復していただくの部門ではなく、発掘担当者や博物館学芸員を技術的に支援する部門として、また、業務の中心である遺物の保存修復も、研究連絡誌40号（註2）で述べたように、出土直後から展示・活用・保管まで一貫した作業と考え、広い意味での埋蔵文化財活用の総合的な技術部門になりたいと考えている。

どこまで要望にお応えできるか難しいところもあるが、早期実現に向け努力していきたい。

註

- 1 「出土水浸木材保存処理完了報告」
研究連絡誌39号
- 2 「出土遺物保管システムⅠ」
研究連絡誌40号

平成5年度 保存処理受託事業リスト

* 君津郡市	鉄斧	1	* 印旛郡市	大刀	1
文化財センター	釘	10	文化財センター	刀子	38
	鎌	7		鉄鍬	38
	鉄鍬	58		鎌	16
	刀子	18		釘	11
	紡錘車	1		柄	1
	直刀	9		鉄製環	2
	鉄剣	2		帯金具	2
	短刀	1		轡	1
	耳環	8		鍬	1
	鉄板	1		穂摘み具	4
	煙管	1		鉄不明	2
	環状製品	2		青銅製環	1
	鋤先	1		青銅製帯金具	4
	鉄鋸	1		青銅製飾金具	1
	轡	1		計	123点
	不明鉄製品	2			
	不明銅製品	1			
	計	125点			
* 山武郡市	大刀	5	* 四街道市	刀子	1
文化財センター	金銅装鏡板付轡	1		鉄鍬	29
	辻金具	6		計	30点
	雲珠	1			
	鉄鍬	26			
	刀子	1			
	環状鉄製品	10			
	両頭金具	5			
	鉄板	1			
	計	56点			
* 木更津市	直刀	2	* 香取郡市	かこ	1
	鉄剣	1	文化財センター	刀子	7
	刀子	3		鉄鍬	11
	計	6点		円盤状製品	1
				計	20点